

この9月号会誌では、全体的に質的な高まりと厚みがでてきたと思っています。新たな会員の参加がもう少しあれば同人誌として十分ではないでしょうか。

9月11日の定例会で鹿沼市民文化祭文芸部門関連事業として同意をいただいた、仮称「かぬま詩草2006」の発行について別紙の通り要綱をまとめてみましたので再検討してください。修正点などがあればなおして実行したいと思います。一定の目安に該当する対象者に寄稿を呼びかけていきたいと思いますのでご協力をお願いします。

鹿沼市民文化祭の文芸部門・詩作品の応募は本日締め切りです。現在応募状況は 人、編です。今回は私が責任を持って選者を務めます。入賞賞品等の費用は極力抑えてその分を「かぬま詩草2006」発行にかけます。

このたび私は鹿沼市教育長に就任いたしました。これからも詩友会の活動は続けますが、文化協会の理事、文化祭実行委員会委員は交代していただかねばなりません。前回の会議で次のように役員を決めましたので再確認いたします。

詩友会

会長・岡嶋保之 副会長・小太刀美恵子 会計(兼事務)・武田裕也
監査・塩入佳子 講師 小林 守
鹿沼市文化協会役員(理事・文芸部門)岡嶋保之
鹿沼市文化祭実行委員会委員・詩部会長 岡嶋保之

1 ひまわり

美しい星 小太刀美恵子

「ひまわり」はよい作品です。これまでの作品に比べると格段によくなったと思います。

「小太刀さんが自分の詩の形をつかんだ！」と思いました。これから、この書き方でどんどん進んでいってください。「美しい星」の詩の形は「ひまわり」と同じようですが、ことばの甘さが目立っています。

2 幻聴

黒川フミ

素材に豊かさがあります。幼児期の汚れたオシメの感覚、少女期の恥じらい、働く女の「生きてあることの羞らい」が老いの幻聴の瞬間の中に感じられます。「起き上がって窓外を見ると、しょぼしょぼと細い雨が降っていた」この詩の中では、ここに詩が収斂されて生きています。最後の連は工夫が必要です。種明かしのようなことは禁物ではないでしょうか。

3 elapse~小田和正「静かな場所」を聴いて~ d istrait

詩なんて書きたくない 武田裕也

3編とも、ギターの弾き語りを聴いている感じです。したがって歌詞として歌うように読むことが必要でしょう。現代詩として評価することはできませんが、作者の恋のテーマがよく歌われています。しかし器用貧乏にならないように心がけて下さい。

4 雷 伊藤賢治

このように詩としてまとまってくれば、「神様」という言葉を使うことがなぜ必要なのでしょう。「教会の子・・・神が鳴らす・・・」はいいのですが、「神様」という言葉が直接出てくることで、詩全体の言葉が“もの”ではなく、意味に溶けていくことが避けられません。もうひとつ指摘するとすれば、深い意味を形象化する場合、この詩の言葉のリズムが調和していないところがあります。この詩では伊藤さんの“力強い健康なリズム”がミスマッチをおこなっているのではないのでしょうか。もう一歩抜け出してくれればと期待します。

5 雷鳴 岡嶋保之

期せずして、伊藤さんの詩と同じ表題になっています。意味の深さでは比べられませんが、岡嶋さんの場合「雷鳴はいつでも人に衝撃を 形のない不安を残す それはあたかも自らの心の闇を突き刺す 刃のようだ」のそのさきが描かれていません。ここからが意味の始まりではないのでしょうか。形はまとまってきていますのでもう一つ切り込みを期待します。

6 月に想う 駒橋きみ子

構成されたよい作品です。言葉遣いもリズムもほどよい調和が感じられます。ところどころ無駄な表現がありますので削り落とせばもっと整ってきます。「・・・のような、・・・のように」という散文的な直喩は注意が必要です。ここぞというところで意識的に使ってみてください。最後の連のまとめの説明文は必要ないでしょう。留意してください。

7 水煙 小林 守

自作につき批評は皆さんにお願いします。